



神原 輝彦さん (80)
弘子さん (79)
中田町・要害
1962(昭和37)年9月入籍

言いだいごどは言い合わねえど

★二人のなれ初めは
【二人】仲人さんに紹介してもらってお見合いしたね。

★お互いの第一印象は
【輝彦】かわいいと思ったよ。うちで農業やってたから、農家さ嫁いでくれる人だといいなと思ったね。

【弘子】農業やってんのに手がきれいだったから、清潔感のある人だなと思ったよ。

★結婚当時の思い出は
【輝彦】二人でバイクに乗ってそばを食べに行ったり、映画を観に行ったりしたことがな。

【弘子】嫁ぐまで農作業なんてやったことなかったから、最初はうんと大変だった。草取りしてって言われども、どの草を取ったらいいが分からなくて大変だったね。

★お互いの性格は
【輝彦】何事にも前向きだね。

【弘子】短気などごもあつけど、まじめだよ。頼まれると断れない人だね。

★夫婦円満のコツは
【弘子】言いだいごどは何でも言い合って納得すること。あとはお互いに感謝の気持ちを持つことだね。

★これからしたいことは
【輝彦】鳴子とか一関とか、近くてもいいから、二人でゆっくり温泉さ入りに行きたいね。

One's Home

ふるさとへの思い

「私の原点」ふるさと

令和元年6月8、9の両日、東京いしこし会の10人でふるさとを探訪した。石越の史跡や登米町の「みやぎの明治村」を中心に観光。さらに、第15回神楽共演石越大会を拝見し、密度の濃い2日間を過ごした。後日、参加者の探訪記所感を小冊子に編集し、会員などに配布。私は、「ふるさととは魔物」といういささか物騒なタイトルの感想文を提出した。

私にとってふるさととは、わずか10年足らずの幼少期に体験した、宝石のごとく光り輝く全ての環境である。自己感性を育み、感情豊かな人間をつくり上げた場所だった。その故郷での思い出が、現在の私のパワーになっている。苦しみ、楽しみを交えた長

金澤 敏彦さん(74)

東京いしこし会事務局次長
石越町(長根)出身



い人生の道のりの中で、このパワーが脳裏をかすめる。幾度となく励まされ、癒されてきたことか。50年以上前、3年間滞在したロンドンでいつも見た夢は、冠雪した富士山と故郷である石越の田園風景であった。ふるさとの思い出は、それほど強烈な援軍になっていた。

長い時の流れによって、私が体験したふるさとと現在のふるさとの姿に生じる差異はときに残酷に感じられる。故郷と長く離れ生活してきた者にとって、体験した実相はいつまでも不変であるが故に、差異による分離感は一層恨めしく、いとoshii。幼少期に、深く強烈に思い出として受動すればするほど、大きな喪失感を抱くのだが、この感覚はふるさとしか与えてくれない。ふるさととは時間空間を超えた大きなゆりかごである。

「ふるさととは遠きにおいて思ふもの。そして悲しくうたふもの。よしや、うらぶれて異土の乞食となるとても、帰るところにあるまじや」。室生犀星の有名な詩の一節である。いつか、長年ふるさとで生活した級友たちと、離れた私たちそれぞれのふるさと感について話してみたい。

おらほの道の駅

道の駅津山 「もくもくランド」



本館では産地直売所「ときめき野菜」が営業再開。木工品の販売とお食事処「木里口」は、本館隣の物産館で営業しています。

今月は、道の駅津山「もくもくランド」の西條孝一 駅長にお話を伺いました。

Q 昨年の台風19号で大きな被害を受けましたが、現在の復興状況を教えてください。

台風によって建物全体が浸水し、もくもくランドの名物である木工品の約半分が売り物にならなくなっていました。被災した当初は、営業を再開できるのは当分先になってしまおうと思っていましたが、市内外からボランティアに来てくださった皆さんのおかげで、台風の2週間後に仮オー

プンすることができました。本当に感謝の気持ちでいっぱい。木工品も、今までのもくもくハウスではなく、物産館で販売しています。

Q おすすめ商品などを教えてください。

木工品は千支の置物が人気です。産直ときめき野菜では、



2020年の千支である「子」の置物は見た目も可愛く人気商品



麺の下にご飯も入っているまんぷくカレーラーメンはボリューム満点。900円

季節野菜、漬物などが充実。また、寒い今の時期は「木里口」のまんぷくカレーラーメンがおすすめです。

温かいラーメンやぬくもりを感じる木工品でぜひ心も温まりに来てください。

【問い合わせ】道の駅津山「もくもくランド」
☎0225(69)2341

まちの文芸

●3月号は俳句・川柳です。住所・氏名・電話番号を記入し、1月31日(金)までご応募ください。作品・氏名には全てふりがなを振ってください。

●応募者多数の場合選考して掲載します。

朝焼の我が屋の上空餅場へと
みごとなVで一飛乱れず
ゆつくりと星を見たくて露天風呂
寒さ忘れてじっと見ている

七五三振袖の孫靴をはき
カメラ目線に笑い広がる
琉球と大陸文化融合す
朱塗りの正殿今や幻像

それぞれ「ありがとう」を伝えたくて
稽古に励み公演を待つ

星 慶堅 (迫)
三浦 智恵 (迫)
千葉 良子 (東和)
丸山 米子 (東和)
熊谷たかよ (中田)

抑制のきゅうりの集荷今日で終え
家族ねぎらう美酒買求む
北上川の流れ望みて山寺の
夫の命日三回忌

宇宙まで往復出来る今の世に
豪雨水害師走雨とは
夕ぐれ時愛猫の別れただ呆然
そっと抱きしめありがとう九年間

寒くなり枯れ葉みな落ち裸木の
先に一つのカリンの残る

熊谷タヘ子 (中田)
酒井みつ子 (中田)
千葉 源治 (中田)
沼倉いね子 (中田)
本宮やつの (中田)